

研究・調査報告書

報告書番号	担当
10	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Alcohol-attributable deaths and years of potential life lost among American Indians and Alaska Natives-United States, 2001-2005. アメリカインディアン、アラスカネイティブにおけるアルコールに起因する死と損失生存可能年数-アメリカ 2001-2005	
執筆者 Centers for Disease Control and Prevention (CDC).	
掲載誌 (番号又は発行年月日) MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2008 Aug 29;57(34):938-41.	
キーワード 飲酒、損失生存可能年数、アメリカインディアン、アラスカネイティブ	
要 旨 過剰な飲酒がアメリカでは主要な死因となっており、アメリカインディアン (AI)、アラスカネイティブ (AN) に公衆衛生上大きな影響を与えている。 アメリカインディアン (AI)、アラスカネイティブ (AN) の年間のアルコールに起因する死亡数、損失生存可能年数を評価するため、公式な死亡情報とCDCアルコール関連疾患影響ソフトを用いてCDCが2001-2005年のデータを分析した。 そのレポートを要約すると、アルコールに起因する死亡はAI/ANの全死亡の11.7%を占め、年齢調整したAI/ANのアルコール起因死亡はアメリカの一般母集団の約2倍であり、AI/ANはアメリカ一般母集団に比べ損失生存可能年数が6.4年増加していた (36.3対29.9)。 これらの知見から過剰な飲酒を防ぎAI/ANのアルコール関連罹病率・死亡率を減少させる地域集団への効果的な介入の重要性が強調される。	